

ミツバチや養蜂が学びに活かされています!

ミツバチが教えてくれる大切なことや、当コンクールを子供たちの学びや喜びにつなげていただいている例を紹介します。



ミツバチが教えてくれる大切なこと

ミツバチは家族で支え合っている

ひとつの巣箱には女王バチ、働きバチ、オスバチがいて、それぞれがもつ大切な役目を一生懸命に果たしながら、助け合って「家族」で暮らしています。



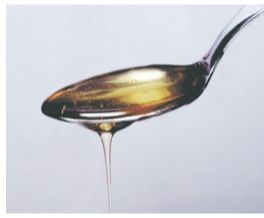
みんなは一人のために

ミツバチは一匹一匹が様々な役割を担いながら共に生きている社会性の昆虫です。それは私たち人間も同じ。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の奉仕の気持ちをミツバチは教えてくれます。



ミツバチからの貴重な恵み、命の重み

一匹のミツバチが花畑を飛び回り、一生かかって集められるはちみつのは量は、スプーン一杯分にもなりません。はちみつには、ミツバチ一匹の命の重さが詰まっています。



ミツバチの一枚画コンクール 受賞者の声



<第6回 優秀賞 幼児の部>

金澤 凜奈 さん

(入賞したと聞き)はじめはびっくりして「信じられない!」と思いましたが、がんばって描いたので、とっても嬉しかったです。小さなミツバチさんもずっと幸せに生きられる自然がいっぱいあればいいなと、お花をいっぱい描きました。



<第5回 入選 中高生の部 (中学生)>

竹野 綾 さん

私は正直、ハチが怖くて苦手だったのですが、ミツバチと花と人のつながりを表現するために、ミツバチの生体を調べるにつれ、その存在の大切さが分かりました。

ミツバチと触れ合う子供たちの様子



※みつばち教室の様子

「ミツバチの一枚画コンクール」に団体応募をいただいた先生がたの声

このコンクールの目的である「命の大切さ」や、「社会性」「協力しあって生きることの大切さ」を、子供たちに考えてもらいたいと思い、毎年参加しています。2年生の生活科、3年生の理科で昆虫の生態を学ぶ単元があり、このコンクールへの参加で、その単元の理解にもつなげています。
(小学校の先生より)

ミツバチは子供たちにとって身近な生き物です。いちご農家さんがミツバチを使って受粉しているのも素晴らしいですね。当校では自由参加にしていますが、子供たちは楽しんで取り組んでいるようです。
(小学校の先生より)

生き物がモチーフだと生徒が積極的に描いてくれるので、このコンクールに参加しています。「ミツバチが生きやすい環境」について考えることで「環境問題」について学べます。また、普段はなかなか知り得ない「ミツバチの生態」などにも視線を向けられるところが良い点だと思います。
(中学校の先生より)

作品の応募が森づくりにつながる



養蜂業を原点とする山田養蜂場は、「自然との調和」を理念に掲げており、未来を担う子供たちに豊かな自然環境を受け渡そうと、1999年より国内外で植樹活動を続けています。

「ミツバチの一枚画コンクール」では、**応募作品1点につき1本の植樹**を行っていて、昨年は応募作品と同数の20,896本を、中国とネパールに植樹しました。植樹した場所では森が蘇っています。

植樹地：ネパールの様子

Before



2014年

After



2019年

コンクールに応募されるみなさまへ

- 応募者全員に参加賞を差し上げます。
- 山田養蜂場が取り組む国内外の植樹活動で、応募数1点につき1本の植樹を行います。

団体奨励賞について

コンクールの発展に寄与した学校・団体に授与します。受賞した小学校には書籍のセット「みつばち文庫」、幼稚園・中学校・高校・画塾などには弊社商品をお届けします。